



復興庁 双葉町教育委員会 生涯学習係

草野 恵美さん

\ 住民に寄り添い被災地の復興を目指す /

大 学2年生の時、地元の福島県との交流プログラムでベトナムとラオスを訪問しました。そこで出会ったのが、青年海外協力隊員。日本語教育や農村振興に生き生きと取り組む姿を見て、私もこうなりたいと思いました。卒業後にその夢がかない、まさに派遣前の訓練が始まろうとしていた時、2011年3月11日に巨大地震が東北を襲いました。
「なぜ今海外に行くんだ」「地元を支援すべきじゃないか」。さまざまな思

いが駆け巡りました。でも海外から多くの支援が被災地に届く様子を見て、「今、開発途上国に貢献することは、いずれ日本のためになる」と参加を決意しました。派遣先のフィリピンでは、ココナツの民芸品を作る団体で、地元の人たちと共にデザインなどを工夫しながら新たな商品を生み出し、販路の開拓にも取り組みました。
そして帰国後は、迷いなく、地元で貢献できる仕事に就きたいと思い、復興庁に就職しました。現在は、福島県

双葉町の赴任となり、防災や健康、郷土文化など生涯学習の講座の企画・運営を担当しています。町民が本当に必要としている事業を探るためには、多くの人の意見を取り入れるよう努めなければなりません。アンケートを実施した結果、体験型への要望が多いことが分かり、陶芸や絵手紙などを学ぶ講座を立ち上げたところです。利用者が求めるものを相手の目線に立って考える。協力隊の経験が確かに生きています。

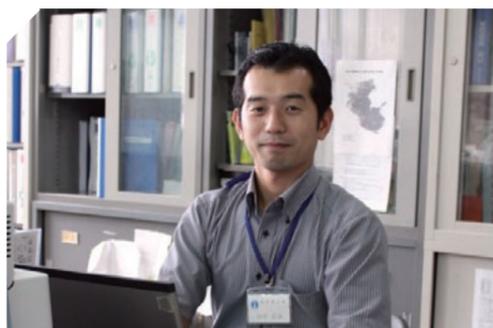


フィリピンの人々とココナツの民芸品を制作。スタッフの生計向上につながった

特集 地域発の国際協力
ニッポン魂が生きる

協力隊の経験を生かし、地域おこし!

地域の課題を見つけ、住民たちに溶け込み、共に解決する。開発途上国で、そんな経験を積んできたJICAボランティアが、日本の地域活性化の担い手になっている。



那智勝浦町役場 総務課 企画係

田中 宏幸さん

\ 地域と行政をつなぐ懸け橋に /

ご みが山積みとなり、汚水があふれるタイのスラム街。大学3年生の時に目にしたこの光景が、国際協力の道を志した原点です。
その一歩として参加した青年海外協力隊では、中南米のコスタリカの小学校で環境問題を教えたり、児童や保護者を集め近隣のごみ拾いをしたりしました。
協力隊の使命の一つは、その経験を日本国内で課題を抱えている地域

に還元すること。帰国後は、地元ではありませんが、縁あってつながった和歌山県的那智勝浦町役場に勤務し、産業の衰退や過疎化が進む地域の活性化に取り組んでいます。地域の農産物にブランド価値を付けるためのTシャツ制作や、定住体験者用の宿泊施設の建設などを実施できないか、地元の人たちと話し合いを進めています。
もちろん、思うようにいかないことも

たくさんあります。小学校の外で児童とごみ拾いをするイベントを計画した時のこと。野良犬や犯罪などの懸念があり、同僚から賛成意見を得られませんでした。それでも、つまづくことは協力隊時代に何度も経験済み。学校の先生や保護者の方との話し合いを重ね、警察の協力も得て実施にこぎつけました。今後もコスタリカで鍛えた精神的なタフさを武器に、那智勝浦町を盛り上げていきたいと思っています。



コスタリカでは、2年間で約100回、現地の学校で環境問題を伝える授業を行った



ジェンベ奏者

ジュバテ 麻子さん

\ 元気をもたらすアフリカンミュージック /

地 平線が広がる大地で生き生きと駆け回る動物、生きるパワーにあふれた人々。小学生の時、アフリカを舞台にしたテレビ番組が好きで、大人になったら絶対に行ってみたくて思っていました。
念願かない、青年海外協力隊員として赴任したのはジンバブエ。小学校でバレーボールやインディアカ※を指導することになり、限られた道具を使って、子どもたちと一生懸命練習しまし

た。スポーツが盛んになることで、地域も活気が出てきたように思います。
また、アフリカで強烈な衝撃を受けたのが、西アフリカの伝統音楽「ジェンベ」です。軽快な太鼓のリズムはまさにアフリカ! 次は、音楽を通してアフリカの魅力を日本の人たちに伝えたいと思いました。
帰国後、ギニア出身のジェンベ奏者、アラマ・ジュバテと結婚し、生活の拠点を日本に移しました。そして日本

各地の学校や保育園、老人福祉施設、祭りなどを回り、夫と共に演奏活動を始めました。子どもたちに実際に太鼓をたたいてもらおうと、とても盛り上がりやすいです。演奏後、「元気が出たよ!」「楽しかった!」といった言葉をもらえるとやりがいを感じます。今後は私たちのパフォーマンスを通して、日本を元気にできたらと思っています。
※羽根の付いたボールを手で打ち合うスポーツ。



ジンバブエの小学校でインディアカ大会を開催。参加賞のヨーヨーをもらって、みんなうれしそうだ